

受賞・表彰報告

Award and Commendation

はじめに

昨年度、当研究所職員の調査研究活動を通して、光栄にも複数の受賞を頂きました。

あらためまして、関係各位に深謝を表します。

本章では、受賞者からの活動の概要や感想などを紹介いたします。



令和6年度 土木学会 論文奨励賞

「地域公共交通のあるべき補助方式への一考察 ―赤字補填からの脱却の主張に着目して―」

報告：何 功（都市地域・環境部門 研究員 博士（工学））

職場の深い理解と後押しのもと、当研究所での勤務を続けながら2021年から芝浦工業大学で博士課程に入学して研究に取り組んできました。その中でこれまでに7編の査読付き学術論文を発表することができましたが、うち一つで歴史と伝統ある土木学会論文奨励賞をいただくことができました。職場のご理解なくして有り得なかった受賞であり、感謝申し上げます。

そもそも私は学部教育を土木工学ではない専門で修めており、土木工学プロパーとは言えませんが、そうした私でも賞をいただけたことは、土木学会というコミュニティの懐の広さを示す出来事の一つだと思います。

この論文はもとより、私の博士研究は当研究所での地域公共交通関係業務で得られた経験や課題意識に基づいています。当研究所での地域公共交通の地方の現場と中央の政策の最前線の業務を経て、地域公共交通業界が、なにかと有識者やコンサルタントの一種の「アート」（個別的な事前介入）に依拠しており、市場メカニズムや分権的意思決定により政策の出力を平準化するプロセスが弱いことに問題意識を持つようになりました。これを受けて私の研究の方向性は、地方自治体の好ましい地域公共交通供給判断を生み出す政府間補助金のあり方や、自治体が運送サービス委託先事業者の供給効率の向上を可能にする補助金入札制のあり方に向かっていきました。本論文は、それらのうち補助金入札制に関する研究レビューと政策評価の論文なのですが、これが意外にも編集委員会・表彰委員会から、本格的なレビュー論文の持つ力を示してくれたとの高評価を得て受賞につながりました。昨今の日本の中央官庁の政策が、従前の政策判断や専門家コミュニティの見解の積み重ねをよく踏まえずに、財政当局に示すための見かけの新規性ドリブンで形成されていることへのアンチテーゼという意図も込めて書いた論文なので、そこを積極的に評価してもらえたことはありがたいことです。

地域公共交通に関する研究論文が土木学会の賞をいただくのは初めてのことであり、微力ながら、地域公共交通研究コミュニティにますます貢献していきたいと考えております。



令和7年度 土木学会全国大会 第80回年次学術講演会 優秀講演者

「アクティビティ・ベースド・シミュレータにおける活用を想定した標準的な個人データ生成モデルの構築」

報告：石川達也（データサイエンス室 研究員）

本受賞は、国土技術政策総合研究所（国総研）都市施設研究室の「都市政策に対応する都市内における人の流動の推計手法の深度化に関する調査業務」で検討した内容を取りまとめた論文を、令和7年度土木学会全国大会 第80回年次学術講演会にて発表したところ、優秀講演者として評価いただいたものです。

アクティビティ・ベースド・シミュレータ（ABS）は、個人属性を加味した移動の分析や、外出率・移動時間・滞留人口などの評価が可能な人の移動の分析手法であり、政策的な活用が期待されています。しかし、ABSのインプットとなる個人データは直接取得することが難しく、また各都市でのモデル構築コストの高さも普及の妨げとなっています。そこで国総研都市施設研究室では、全国PTを活用した標準的なABSの開発を進め、各都市で基本的なデータを揃えればABSが利用可能となる環境の整備をめざしています。本研究は、その一環として国勢調査などの入手しやすいデータをもとにABSに必要な個人データ（居住地・性年齢・就業形態・通勤通学先など）を疑似的に生成するモデルを構築したものです。

少ないデータでも多くの属性の関係性を表現でき、解釈性も高いベイジアンネットワークで属性を確率的に付与し、通勤通学先に関しては多項ロジットモデルで推計、その後IPF法で夜間人口・従業人口との整合を図る3段階の生成フローとしています。内部検証における実績と推計の乖離は僅かであり、外部検証においても実績をおおむね再現していることから、各都市へのABS普及を後押しするツールとしての有用性が示されました。

今回の受賞を励みに、引き続き標準的なABSの開発に貢献すると共に、技術の向上に取り組んでまいります。